様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３４０１０１９

研究課題名（和文）環太平洋における宗教ＮＧＯの国際的ネットワークに関する研究

研究課題名（英文）Research on the international network of religion NGO in the Pacific Rim

研究代表者
稲場　圭信（INABA, KEISHIN）

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：３０３６２７５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,100,000円、（間接経費）　　2,430,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、環太平洋のアジアの国々（具体的には、日本、台湾、韓国、タイ、シンガポール、インドネシア、オーストラリア）を調査地域とし、宗教ＮＧＯの社会的活動、弱者救済活動、災害支援活動を実地調査した。
　様々なネットワークが交錯するグローバルな地域間連携が存在する環太平洋において、宗教ＮＧＯはローカルからトランスナショナルの様々なレベルで他の市民セクターと連携するネットワーク型へと変容し、市民社会を作る社会的アクターとして機能している実態が明らかになった。

研究成果の概要（英文）： This study deals with disaster relief and social welfare activities conducted by religious NGOs in several Asian countries of the Pacific Rim: research was conducted in Japan, Taiwan, South Korea, Thailand, Singapore, Indonesia, and Australia.
Some religious NGOs in those areas have been involved in relief activities during emergencies and disasters and also in support activities for people in need. In the Pacific Rim countries in Asia, religious NGOs have developed into networks of interrelated agencies working with other public sector groups at various levels, from local to transnational.
Overall, this research has shown that these religious NGOs are functioning as social actors to help build a strong civil society.

研究分野： 人文学A

科研費の分科・細目： 宗教学

キーワード： 宗教NGO　環太平洋　宗教的利他主義　宗教の社会貢献

１．研究開始当初の背景

(1) [現代社会の変化と宗教的利他主義の研究] ２０世紀後半、世界各国が豊かさを求め、政治的ガバナンスの民主化を進めた。しかし、現代社会には、犯罪、貧困、環境問題、テロリズムなど多くの問題がある。小さな政府と市場至上主義により、貧富の格差は拡大し、勝ち組・負け組に分断された社会へと向かっている。さらに、交通手段と情報網の発達と雇用形態の多様化、グローバリゼーションにより移動性の高い社会になり、共同体は崩壊の危機に瀕している（ベラー他『心の習慣』『良い社会』など）。今、このような多くの難問を抱えている現代社会に対して、従来のような行政主導のシステムに頼るのではない、自発的な利他性に富む市民社会が必要とされている。過剰な利己主義への批判と支え合う市民社会の構築への希求から、益々、利他性に関する研究が盛んになっている(アメリカでは、ジョン・テンプルトン財団が利他性の研究に約３億円を助成したり、アメリカ社会学会に「利他主義と社会的連帯」に関するセクションを設けたりしている)。そして、宗教的利他主義にも関心が向けられている（Jacob Neusner, Altruism in World Religions 2005、Keishin Inaba and Kate Loewenthal, 2009, ‘Religion and Altruism’, in Peter B. Clarke ed., The Oxford Handbook of the Sociology of Religion, pp.876-889.）。

日本では、宗教的利他主義の研究として、島薗進編『救いと徳』1992、ロバート・キサラ『現代宗教と社会倫理』1992 以来、研究代表者の研究（後述）などが存在する。欧米では、ソーシャル・キャピタルとしての宗教に対する関心が高い（Corwin E. Smidt ed., Religion as Social Capital 2003、Robert Furbey et.al,Faith as social capital 2006）。現代アジアの仏教が社会に積極的に関わる指向性に関しては、Engaged Buddhism という概念で分析する研究がある（Christopher S.Queen and Sallie B.King eds., Engaged Buddhism,1996、金子昭『驚異の仏教ボランティア-台湾の社会参画仏教「慈済会」』2005、櫻井義秀『東北タイの開発僧』2009）。研究代表者はグローバルな視点から宗教的利他主義に関する本を刊行した（Ruben Habito & Keishin Inaba eds, The Practice of Altruism 2006）。さらに、宗教の社会貢献を理論的・実証的に研究した学術書をまとめている（稲場圭信・櫻井義秀編著『社会貢献する宗教』2009）。

一方で、上記にあげたような研究は、ある特定地域社会での宗教の社会活動や、教区教会や地域会衆型教会の活動を分析したものが中心で、宗教ＮＧＯをトランスナショナルな視角から研究するという点では、課題を残している。

(2) [環太平洋という地域] 国民国家の枠を超えたグローバル化、トランスナショナルな状況化に、環太平洋の地政学的な重要性も変化している。アジア太平洋経済協力（ＡＰＥＣ）は、世界全体の約４割の人口を抱える。その中でも、華僑国家シンガポールには民族的ネットワークと宗教者のネットワークが混在する。シンガポールとシドニーの直線上にバンガロールとドバイを通してロンドンとつながるネットワークが存在し、１７億人を抱えるイギリス連邦とつながっている。また、台湾は、中国との間に政治的緊張があるが、経済的なネットワークの上に人の交流がある。上記のように、環太平洋は様々なネットワークが交錯する場である。このようなグローバルな地域間連携の流れに環太平洋の宗教ＮＧＯも乗っており、従来の慈善とは異なり、一国・一地域における社会貢献型・利他主義型宗教から、トランスナショナルと多文化主義を前提としたネットワーク型のＮＧＯへと変容している。

(3) [宗教ＮＧＯと国際的ネットワーク] 2004 年のスマトラ島沖地震と津波の災害では、支援活動の輪が世界に広がり、宗教ＮＧＯも救援活動をした。2006 年に発生したジャワ島中部地震では、シャンティ国際ボランティア会が緊急救援物資の配布などに迅速に動いた。また、世界宗教者平和会議の第８回世界大会(2006 年)では、平和構築と持続可能な開発について宗教者の役割と具体的な実践を討議し、Shared Security（ともに命を守る）という安全保障の取り組み姿勢を示した。本研究で取り上げる団体のひとつである慈済会は、災害救援活動において存在感を増し、世界最大級のＮＧＯに成長している。救世軍のように数百億円規模で活動している団体もあり、経済社会理事会における協議的地位を得ている国連ＮＧＯ（約 2,000）のうち宗教ＮＧＯは 180 団体を超える。このように宗教ＮＧＯは規模及び国際的発言力の面で重要性を増している。国際平和、環境問題を含めて地球規模の課題への取り組みは、トランスナショナルなネットワークがあってはじめて可能となろう。各地域の状況の把握、活動による経験値の蓄積による対応も国際的なネットワークの下支えが必要と考えられる。

研究代表者と研究分担者は、20 名あまりの研究者で「宗教の社会貢献活動研究」を進めてきたが、２０世紀末から始まった宗教ＮＧＯの国際的ネットワークの研究には取り組めていない。これまでの個別地域における宗教の社会活動研究から、宗教ＮＧＯの国際的ネットワークの研究が必要とされている。前述の研究成果と研究者の国際的ネットワークを生かし、上記の新たな研究の必要性を感得し、本研究を立案した。

２．研究の目的

様々なネットワークが交錯する環太平洋は、グローバルな地域間連携の流れにあって、その重要性を増しており、宗教ＮＧＯは一地

域貢献型からトランスナショナルと多文化主義を前提としたネットワーク型へと変容している。本研究は環太平洋のアジアの国々（具体的には、日本、台湾、韓国、タイ、シンガポール、インドネシア、オーストラリア）を調査地域とし、事例として、慈済会、救世軍、宗教をベースにした協同組合等を取り上げ、宗教ＮＧＯの広がり、ネットワーク型への移行による活動の変容、及び宗教的活動理念を明らかにするとともに、宗教ＮＧＯが、ローカルからトランスナショナルに至る様々なレベルで行政・国家・国連との関わりを持ちながら、市民社会を作るアクターとしてどのように機能しているのかを明らかにする。

３．研究の方法

調査対象の団体（①慈済会、②協同組合、③救世軍、④その他（東日本大震災被災地での活動））の現地調査を国・地域によって年度ごとに次のように実施する。平成 23 年度は、台湾、韓国、タイ、シンガポールを主な調査地域とし、現地研究者との連携でフィールドワークを実施する。平成 24 年度には、前年度の研究結果を踏まえて、さらに、インドネシア、オーストラリア、アメリカも入れてフィールドワークを実施する。平成 25 年度には、補足調査を行い、「宗教と社会」学会、日本宗教学会等で研究成果を報告する。

４．研究成果

平成 23 年度は、宗教ＮＧＯに関する情報収集、および、東日本大震災後の宗教 NGO、宗教団体の救援・支援活動を調査し、情報収集を行った。台湾関連では、財団法人・仏教慈済基金会が、東日本大震災に際して、発生当初から大規模な救援活動を展開した。震災発生後、同会日本支部でインタビューを行い、また実際に釜石市で義援金の直接配布の現場をフィールドワークした。韓国に関しては。東日本大震災発生時に支援を行った宗教団体（韓国キリスト教連合福祉団、曹渓宗社会福祉財団、韓国カリタス等）へのインタビュー、宗教的背景をもつ韓国協同組合及びその担当者へのインタビューを行った。東日本大震災に際して、環太平洋の宗教 NGO が支援活動を展開している実態が明らかになった。

平成 24 年度は、台湾、タイ、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、および東日本大震災における被災地での宗教者の支援活動調査を実施した。8 月には、台湾の慈済大学にて日台学術交流研究会を開催し、その後、現地で宗教系 NGO の訪問調査を行った。12 月下旬に再度、台湾において、台北市内にて仏教慈済基金会（慈済会）関係者に取材、資料収集を行った。さらに 3 月中旬にインドネシア（ジャカルタ）及び台湾（台北市）に渡航、慈済会インドネシア支部やジャカルタ市内の同会「大愛村」、慈済病院等を訪問して関係者に取材し、台北市では慈済会資料を収集した。また、オーストラリア・シンガポールにおける宗教団体・宗教 NGO の現地視察・関連資料収集、賀川豊彦関連資料収集、協同組合現地視察・関連資料の収集を行った。ブリスベンでマレーニ共同体の現地視察・資料収集、シドニーで救世軍本部調査、キャンベラでナショナル・アーカイブス及び国立図書館で賀川豊彦関連資料調査等、メルボルンでメルボルン博物館にて宗教の社会貢献関連展示調査等、カカドゥ国立公園でミッショナリーとアボリジニ関連の現地視察、関連文献調査等を行った。

最終年度である平成 25 年度は、台湾、インドネシア、ニュージーランド、東日本大震災における被災地等での宗教者の活動を調査した。救世軍に関しては、オークランド、ウェリントン、クライストチャーチ、ロトルアの支部、各博物館、図書館等で調査を行った。さらに、2010 年、2011 年に都市直下地震を経験したクライストチャーチでは、宗教の社会貢献活動、社会的役割と都市との関係を考察するための知見を得た。台湾に本部を持つ世界最大の仏教ＮＧＯ・財団法人仏教慈済基金会（慈済会）の研究調査では、東日本大震災での慈済会による大規模な支援活動を調査すると同時に、台湾本土での慈済会の多方面にわたる活動を実地調査した。また、海外における最大支部であるインドネシア支部の訪問調査を含めた研究調査を行い、同会の活動が華僑ネットワークとも連動していること等の知見を得ることができた。

様々なネットワークが交錯するグローバルな地域間連携が存在する環太平洋において、宗教ＮＧＯはローカルからトランスナショナルの様々なレベルで他の市民セクターと連携するネットワーク型へと変容し、市民社会を作る社会的アクターとして機能している実態が明らかになった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

① 濱田 陽「環太平洋の平和的発展と共有宗教文化 ： オーストラリアの四つの事例」『宗教と社会貢献』2014，第4巻 第1号、pp.27-60 http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/27463

② Minako Sakai and Keishin Inaba, 2014 "Fostering civil society organizations for disaster relief in Japan: Challenges and prospects for sustainable future operations", in Minako Sakai, Edwin Jurriens, Jan Zhang and Alec Thornton eds.,Disaster Relief in the Asia Pacific: Agency and Resilience, New York, Routledge, pp.52-66.査読あり

③ 金子昭「インドネシアにおける台湾仏教慈済基金会の活動―とくにジャカルタでの大愛村建設をめぐって―」、『おやさと研究所年報』第 20 号、天理大学おやさと研究所、2014 年、pp.1-23、査読無、DOI 無。
④ 稲場圭信、2013「震災復興と宗教」真宗大谷派教学研究所『教化研究』no.155, pp.148-167、査読なし
⑤ 稲場圭信, 2013「宗教の社会貢献活動を支援するために－災害救援マップ」『寺門興隆』10 月号、興山舎、2013 年 10 月,77-83 頁、査読なし
⑥ 稲場圭信, 2013「社会貢献から宗教を見る」 金光教大阪センター『大阪センター通信』vol.38,pp.52-75、査読なし
⑦ 稲場圭信,2013, 大災害にむけた平常時のそなえ」『中外日報』(論・談)2013 年 6 月 4 日付 6,7 面.査読なし
⑧ 櫻井義秀,2013,「限界寺院からソーシャル・キャピタルの寺院へ」『社会と調査』10:97－101.査読なし
⑨ 稲場圭信「日本人の利他性と無自覚の宗教性」『中央公論』、査読無、2012 年 5 月号、40-47
⑩ 稲場圭信「東日本大震災における宗教者と宗教研究者」『宗教研究』373 号、査読有、2012 年、29-52
⑪ 佐々木香澄・櫻井義秀「タイ上座仏教寺院と HIV/AIDS を生きる人々―プラバートナンプ寺院を事例に」『タイ研究』査読有,2012、pp.21－41.
⑫ 関嘉寛「東日本大震災における初期の災害ボランティア」「北リアスにおける QOL を重視した災害復興政策研究報告書」査読なし、2012、47-55.
⑬ 濱田陽「賀川豊彦と海洋文明–死線と大震災を越えて」『宗教と社会貢献』第１巻第１号、査読有、2011,53‐77 頁

〔学会発表〕(計 15 件)
① Sakurai Yoshihide, 2014, ‘Demographic change and Temple Buddhism in Japan,’ Department of Japanese Studies, Faculty of Humanities and Social Sciences, Zagreb University, February 21, 2014, Croatia.
② 濱田陽「共有宗教文化と未来文明の軸」地球システム・倫理学会　2013 年 11 月 16 日　つくば国際会議場
③ Sakurai Yoshihide, 2013, ‘Religious movements in Japan for the new century,’ 2013 IOS-HU (Sociology) Joint Workshop on Contemporary Social Change in Taiwan and Japan, November 4, 2013, Academia SINICA, Taiwan.
④ 稲場圭信「災害救援マップと宗教施設」、日本宗教学会第 72 回学術大会（於：國學院大學）2013 年 9 月 8 日
⑤ 濱田陽「共有宗教文化とオーストラリア」日本宗教学会第 72 回学術大会（於：國學院大學）2013 年 9 月 8 日
⑥ 櫻井義秀「タイ上座仏教による社会的包摂」北海商科大学公開講座、2013 年 7 月 20 日、北海商科大学
⑦ Keishin Inaba, "Support Activities by People of Faith after the Great East Japan Earthquake", International Society for the Sociology of Religion (ISSR) conference (Turuk, Finland), 28 June 2013. 国際宗教社会学会第 32 回大会
⑧ 稲場圭信「震災復興と宗教」、「宗教と社会」学会第２１回学術大会テーマセッション「宗教とソーシャル・キャピタル」（於：皇學館大学）2013 年 6 月 16 日
⑨ 稲場圭信「東日本大震災における宗教者の関わり」テーマセッション「震災問題を考える（２）」再建への課題と展望」、日本社会学会第 85 学術大会（於：札幌学院大学）2012 年 11 月 3 日
⑩ 稲場圭信「災害時における宗教者と連携の力―その意義と今後の課題―」シンポジウム「ためされる宗教の公益」、日本宗教学会第 71 回学術大会(於:皇學館大學)2012 年 9 月 7 日
⑪ 濱田陽「宗教性の行動と社会貢献」、日本宗教学会第 71 回学術大会（於：皇學館大學）2012 年 9 月 7
⑫ 櫻井義秀「トランスナショナルな宗教－日韓宗教文化交流を事例に」北海道社会学会学術大会、2012 年 6 月 9 日、國學院短期大学、滝川市
⑬ 関嘉寛「東日本大震災におけるボランティア・ＮＰＯ」EUIJ 国際シンポジウム、2011 年 11 月 26 日、関西学院大学
⑭ 稲場圭信「宗教の救援活動・応答―宗教者災害救援ネットワークから―」パネル「東日本大震災と宗教」、日本宗教学会第 70 回学術大会（於：関西学院大学）2011 年 9 月 3 日
⑮ 濱田陽「大災害と複数宗教性」、日本宗教学会第 70 回学術大会(於:関西学院大学)2011 年 9 月 3 日

〔図書〕(計 2 件)
① 稲場圭信・黒崎浩行編著『震災復興と宗教』2013 年、明石書店、301 頁
② 櫻井義秀・濱田陽編著『アジアの宗教とソーシャル・キャピタル』2012 年、明石書店、302 頁

６．研究組織
稲場　圭信（INABA KEISHIN）
大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号：３０３６２７５０

(2)研究分担者
櫻井　義秀（SAKURAI YOSHIHIDE）
北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：５０１９６１３５

濱田　陽（HAMADA YO）
帝京大学・文学部・准教授
研究者番号：７０３８９８５７

金子　昭（KANEKO AKIRA）
天理大学・付置研究所・教授
研究者番号：９０２１４４５２

関　嘉寛（SEKI YOSHIHIRO）
関西学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：３０３１４３４７